

北九州市 児童福祉施設等 第三者評価結果票

1 施設・事業所の概要

- | | |
|---------------|--------------------|
| (1) 事業者名(法人名) | 北九州市 |
| (2) 事業所名 | 北九州市立 貫保育所 |
| (3) 所在地 | 北九州市小倉南区上貫二丁目2番41号 |
| (4) 電話番号 | 093-472-7447 |

2 評価実施日

平成16年 7月13日

3 評価実施者

北九州市(北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会)

4 評価結果

総合評価

保育所は緑豊かな文化記念公園のすぐそばに位置し、子ども達がよく散歩に出かけています。また、園庭には花壇や菜園、築山、木製の家など自然とのふれあいを楽しめる環境が整えられています。

日々の保育では異年齢児との交流が積極的に行われており、子ども同士の育ち合いが見られます。プール活動では並んで順番を待つ子ども達の姿が見られる等、社会的ルールが身につけられています。また、野菜の栽培や小動物（ザリガニ、インコ等）の飼育、絵本・童話の読み聞かせやわらべうた遊びを通して、感性や想像力が育まれ、表現活動や言語環境を豊かなものにしています。

日常的な保護者との情報交換は登降所時の会話や連絡版（全クラス）、個人ノート（3歳未満児）などを通して行われています。連絡版には、取り組みのねらいやクラス全体の様子、子ども達の姿等充実した内容が記載され、保護者に分かりやすいようイラストを入れるなどの工夫も見られ評価できます。

身近な環境問題については、環境に関する講演会の開催、空き缶とプルタブの収集、古いTシャツを使った人形作り、ビニール袋の代わりに広告紙を使った紙箱の利用等、資源を大切に作る取り組みが保護者や子どもに定着しています。また、貫川や文化記念公園の清掃活動が定期的に行われ、身近な自然を大切にしたり親しみを感じたりできるよう日々の保育につながられています。

地域の子育て支援事業として、保育所主催の「たぬきの会」が毎月1回開催されています。「たぬきの会」では施設の開放や講演会、コンサートなどが行われ、年間270名以上の参加があり地域に定着しています。また、市民福祉センターと連携した地域の「のびのびランド」「貫っ子」rハウス」や、市の「育児講座」、国立病院の「NICU（新生児集中治療室）卒業生の集い」などの子育て支援事業に、所長をはじめ職員も幅広く参画しており、高く評価できます。

評価対象ごとの評価

評価対象	評価結果
<p>子どもの発達援助</p> <p>一人一人の子どもの状況に配慮した保育が展開されているか、保育にふさわしい環境が整っているかなどを評価したものです。</p>	<p>地域の実態や子ども達の状況が考慮し、更に身近な環境問題や異年齢交流（縦割り保育）等を盛り込んだ独自の保育計画が立案され、子ども一人一人を受容し、人権を大切にする細やかな保育が展開されています。</p> <p>ケース検討は毎月定例的に行われ、全職員の共通理解のもと、保育実践に生かされています。</p> <p>健康管理や感染症への対応についてはマニュアルが整備され、適切な対応や保護者への情報提供が行われています。</p> <p>給食では子ども達が栽培した野菜を食材に使ったり、クッキング活動（豚汁・カレー作り）をする等、食べることや食事を楽しむことへの意欲を育てる取り組みが行われています。また保護者に対しては給食試食会や子どもの好きなメニューやおやつレシピの配布、保護者アンケートをもとにした給食啓発だより（年三回発行）の配布等、家庭での食事への関心を高める活動が行われ、評価できます。またアレルギー疾患児には除去食が提供されています。</p> <p>園庭には花壇や菜園、築山、木製の家など自然とのふれあいが楽しめる環境が整えられています。</p> <p>限られたスペースの中、0・1歳児室は活動に応じて場を共有したり分けたりするなど、子ども達が落ち着いて過せるよう配慮されています。他のクラスについても保育室内の空間づくりの工夫や廊下の活用等、子ども達が快適に過ごせるような努力が伺えます。</p> <p>日々の保育では異年齢児との交流が積極的に行われており、子ども同士の育ち合いが見られます。</p> <p>野菜の栽培、小動物（ザリガニ、インコ等）の飼育、絵本・童話の読み聞かせやわらべうた遊びを通し、感性や想像力が育まれ、表現活動や言語環境を豊かなものにしていきます。</p> <p>身近な環境問題についての取り組みは、環境に関する講演会の開催、空き缶、プルタブ収集、古いTシャツを使った人形作り、ビニール袋の代わりに広告紙を使った紙箱の利用等、資源を大切にする取り組みが保護者や子どもに定着しており評価できます。</p>
<p>子育て支援</p> <p>子育てに関する保育所と保護者との相互理解や、地域における子育て支援の取り組みなどを評価したものです。</p>	<p>日常的な情報交換は登降所時の会話や個別ノート（3歳未満児）と連絡版（全クラス）で行われています。連絡版にはその日の活動のねらいやクラス全体の活動の様子など充実した内容が記載され、保護者にわかりやすいようにイラストを入れるなど工夫されています。年1回のクラス懇談会の開催、全保護者を対象とした個人懇談又は家庭訪問、日常の子育て相談の実施などを通して相互理解が深められていま</p>

	<p>す。地域の子育て支援事業として保育所主催で「たぬきの会」が毎月1回定期的に開催されています。「たぬきの会」では施設開放や講演会が行われ、年間270名以上の参加があり、地域に定着しています。また、来所・電話による相談などの子育て支援や子育て情報の提供が行われています。</p>
<p>地域住民や関係機関等との連携</p> <p>地域の最も身近な児童福祉施設としての役割を果たしているか、関係機関等との連携を図っているかなどを評価したものです。</p>	<p>地域の関係機関からの情報は保護者が利用しやすいように分類、整理されています。</p> <p>地域との連携は各種行事を通して自治会の協力を得たり、民生児童委員と情報交換を行い保育に反映させるなど良い取り組みが行われています。また、市民福祉センターと連携した地域の「のびのびランド」「貫つ子」「ハウス」や、市の「育児講座」、国立病院の「NICU（新生児集中治療室）卒業生の集い」などの子育て支援事業に、所長をはじめ職員も幅広く参画しており、高く評価できます。</p> <p>近隣の小学校とは授業参観や保育参観、連絡会などで密な連携が図られ、子供同士の交流も深められています。</p> <p>貫川や文化記念公園の清掃活動が定期的に行われ、身近な自然を大切にしたり親しみを感じたりできるよう日々の保育につながれていることは評価できます。</p>
<p>運営管理</p> <p>保育に関する基本方針等が策定されているか、職員研修などの取り組みがなされているかなど、組織としての運営管理を評価したものです。</p>	<p>保育所の基本方針が明文化され、見直しも適切に行われ、職員に周知されています。</p> <p>日常の保育の課題や提案、保護者からの苦情については職員会議や所内研修で協議・検討が行われ、職員間の共通理解が図られています。また所内研修では、限られた時間の中で意見をまとめて発表するトレーニングとしての「3分間スピーチ」など、取り組みが工夫されています。</p> <p>プライバシー保護に関するマニュアルや保育士倫理綱領に基づく規定が定められ、常勤職員をはじめ臨時職員、実習生にも周知徹底が図られています。</p> <p>保育所だより、給食だよりの配布、新聞記事の掲示などを通して、保育所の方針や日常の保育内容や子育て支援に関する情報など、充実した内容の情報提供がなされています。保護者が見やすいように掲示物の配置等の工夫がなされると、より良いものになると思われます。</p> <p>事故、災害時のマニュアルが整備され、不審者に対する訓練も年間計画に盛り込まれています。</p> <p>プール実施時のチェック表（気温・水温等）を作成し、安全対策への配慮がみられます。</p>